腹部腫瘤を伴いエトポシド少量経口持続投与が著効した 高齢者慢性骨髄単球性白血病の1例

坂野 章吾 仁田 正和* 高田 勝利* 御供 泰治*
菊地 基雄 新美 達司 山本 俊幸

Key words: CMMoL, Low dose etoposide

(Jpn J Geriat 1994 ; 31 : 330—331)

単球性白血病は急性および慢性を問わず髄外腫瘤を形成することが多い¹⁾。我々は腹部に腫瘤を形成した骨髄異形成症候群(以下, MDS)の亜型である慢性骨髄単球性白血病(以下, CMMoL)の急性増悪例に対してエトポシド少量経口投与を行い著効した1例を経験した。

症 例

症例: 85歳, 男性, 養護老人ホーム入所中, 1992年8月頃より食欲不振があり, 6ヵ月で約5kgの体重減少を認め, 左下腹部に腫瘤を認めたため9月29日入院となった。入院時, 結膜は貧血あり, 腹部は肝脾は触知しないが左下腹部に直径約8cmの弾性硬で可動性少ない腫瘤を触知した。入院時検査は, 末梢血はWBC 7,200/ μ l, Hb 10.3g/dl, 血小板数20,500/ μ lで, LDHは434IU/lと軽度増加を認めた。腹部腫瘤は大腸癌が疑われ精査された。腹部USは, 内部に低エコーが混在する腫瘤を認めた。上部消化管は異常なかったが, 注腸検査では粘膜面は異常なく, 横行結腸より下行結腸に圧排があり腸管外腫瘤が示唆された。患者の協力, 同意がえられず, 腹部腫瘤に関して, これ以上の精査はおこなえず, 経過観察された。93年2月15日の血液検査にてWBC 19,600/ μ lと増加し, 血小板数35,000/

μ lと血小板数低下を認めた。血液像は異形成の強いエステラーゼ陽性の単球様細胞を71%認め, また過分葉で顆粒に乏しい好中球, および巨大血小板も認められた。骨髄は, やや低形成であったが芽球の増加はなく染色体異常は認めなかった。血清LDHは740IU/lと増加し血清リゾチームは17.5 μ g/mlであった。CMMoLの急性増悪と診断され, 腹部腫瘤はCMMoLの髄外腫瘤が示唆された。患者の協力が得られず点滴による寛解導入療法は困難であったため, エトポシド, 50mg/dayの少量経口投与を開始した(図; 臨床経過)。次第に単球細胞は減少し, 投与2週間後には, 白血球数3,500/ μ l (Mono. 17%)に減少し, 血小板数も126,000/ μ lと安定した。腹部腫瘤も次第に縮小し投与, 約1ヵ月後には消失し, 食事摂取も良好となり, エトポシドの投与量を血球数により調節し, 全身状態は良好となった。

考 案

腹部腫瘤を伴いCMMoLの急性増悪をきたした高齢者の1例を経験した。腹部腫瘤は組織診断ができずCMMoLの髄外腫瘤の確診はできなかったがエトポシドの少量経口持続投与により血液所見の改善とともに腫瘤は消失し, 髄外腫瘤が示唆された。エトポシド少量持続投与は有効血中濃度が持続され再発, 難治性の肺癌, 悪性リンパ腫²⁾, 急性白血病³⁾に対して試みられている。また, CMMoL⁴⁾をはじめMDS⁵⁾にも試みられ有効例が報告されている。エトポシド少量投与は通常の化学療法が合併症などで施行困難な高齢者にも副作用が軽微で投与量の増減が施行中にも可能であり有用と考えられる。高齢者は成人と異なり通常の強力な寛解導入療法が困難な例が多く, 本例のように少量療

S. Banno, M. Kikuchi, T. Niimi, T. Yamamoto : 名古屋市厚生院内科

* M. Nitta, K. Takada, Y. Mitomo : 名古屋市立大学第2内科

Chronic myelomonocytic leukemia with abdominal tumor successfully treated with oral administration of low-dose etoposide in an elderly patient

受付日: 1994. 3. 11, 採用日: 1994. 4. 6

図 臨床経過

法が著効し、Quality of Life の向上をきたすことも意義あることと考えられた。

本例の要旨は第4回、日本老年医学会東海地方会にて報告した。

文 献

- 1) 栗田宗次：腫瘍形成性白血病について。臨床血液 1982 ; 23 : 433—440.
- 2) Greco FA, Johnson DH, Hainsworth JD : Chronic oral etoposide. Cancer 1991 ; 67 : 303—309.
- 3) 小山 覚, 斉藤弘行, 柏葉光利：治療抵抗性白血病および再発白血病に対する経口エトポシド (VP-16) 長期連日投与の寛解導入効果。臨床血液 1991 ; 32 : 736—742.
- 4) Ogata K, Yamada T, Ito T, Gomi S, Tanabe Y, Ohki I, et al : Low-dose etoposide : A potential therapy for myelodysplastic syndromes. Br J Haematol 1992 ; 82 : 354—357.
- 5) 安藤佐知子, 安藤精章, 大谷宜人, 神戸 忠：エトポシド少量投与が著効を示した慢性骨髄単球性白血病の1例。臨床血液 1992 ; 33 : 1890—1894.